

**日本国際保健医療学会
第43回西日本地方会**

参加ガイド

目次

プログラム	1
会場案内図	2
インターネット接続（学会当日、会場内でのみ有効です）	2
会場までの交通	3
参加者のみなさまへ	4
1. 受付	4
2. 同伴者	4
3. 飲食	4
(1) 場所	4
(2) 施設等	4
4. 喫煙	4
5. ゴミ	4
6. 問い合わせ等	4
演者のみなさまへ	5
1. 利益相反の開示	5
2. 口演	5
(1) プレゼンテーション資料の準備と事前送付	5
(2) 当日	5
3. ポスター	5
教育講演	6
シンポジウム 「人々の連帯への道のりを考える：在留外国人をめぐる最近の話題から」	8
一般演題	9
Parallel session [1] コンベンションホール／Convention Hall	9
Parallel session [2] セミナー室 #208／Seminar Room #208	9
Parallel session [3] コンベンションホール／Convention Hall	9
Poster session 1階 ロビー／Lobby, Ground floor	10

プログラム

【午前】

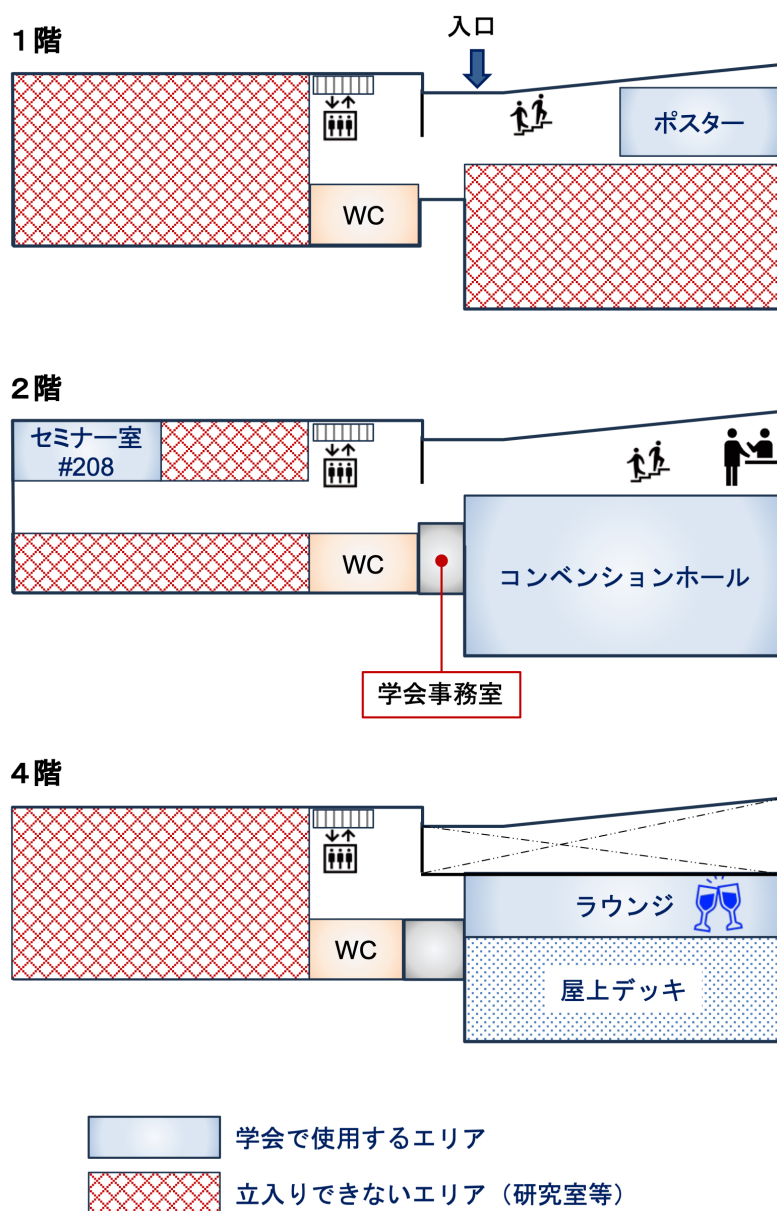
開始時刻	会場／プログラム	
	コンベンションホール	ロビー【1階】
9:15	受付【2階】	一般演題ポスター貼付
10:00	開会ご挨拶：松井 三明（神戸大学）	
10:10	地方会開催の意図について 演者：松井 三明	
10:30	教育講演（1） 低中所得国のための医療デバイス開発と実装 ～ 先進国の経験を踏まえた知識・技術・思想の継承 演者：平川 英司（鹿児島市立病院／長崎大学） 座長：神谷 保彦（長崎大学）	
11:15	～休憩～	
11:25	教育講演（2） Is Knowledge Transfer really feasible? ～ Examining Educational Paradigms, Teaching-Learning Processes, and the Shift Towards Constructivist Learning in Modern Health Education ~ 演者：Carlos Kiyan Tsunami (Institute of Tropical Medicine Antwerp, Belgium) 座長：松井 三明（神戸大学）	一般演題ポスター発表
12:10	～休憩～ (お弁当を事前注文された方は受付まで、注文は以下のサイトから) https://www.lab.kobe-u.ac.jp/ghs-globalhealth/jagh43west/page12.html	

【午後】

会場／プログラム		
開始時刻	コンベンションホール	セミナー室 #208
13:30	一般演題口演 セッション1 座長：樋口 倫代（名古屋市立大学）	一般演題口演 セッション2 座長：増田 研（長崎大学）
14:30	～休憩～	
14:45	一般演題口演 セッション3 座長：中澤 港（神戸大学）	
15:45	～休憩～	
16:00	シンポジウム「人々の連帯への道のりを考える：在留外国人をめぐる最近の話題から」 シンポジスト： 加藤 丈太郎（武庫川女子大学） 高 知恵（大阪公立大学） 樋口 倫代（名古屋市立大学） 山下 正（神戸市看護大学） 指定発言： 移民の健康に関するアジア諸国ネットワークの構築 小林 潤（琉球大学） 座長：岩本 あづさ（国立国際医療研究センター） 小林 潤（琉球大学）	
17:45	ご案内： 第39回 日本国際保健医療学会学術大会 第40回 日本国際保健医療学会東日本地方会 閉会ご挨拶： 本地方会担当・松井 三明（神戸大学） JAGH 理事長・小林 潤（琉球大学）	
18:00	懇親会（4階ラウンジ）＊準備の都合上、できるだけ事前登録をお願いします＊ 事前登録サイト > https://www.lab.kobe-u.ac.jp/ghs-globalhealth/jagh43west/page4.html	

3月2日(日) サイドイベント：「移民の健康」神戸セミナー ～研究課題と手法について学ぼう・語ろう～
事前登録をお願いします > <https://www.lab.kobe-u.ac.jp/ghs-globalhealth/jagh43west/page13.html>

会場案内図



インターネット接続（学会当日、会場内でのみ有効です）

手順1. 無線LANへの接続／Connection to local network

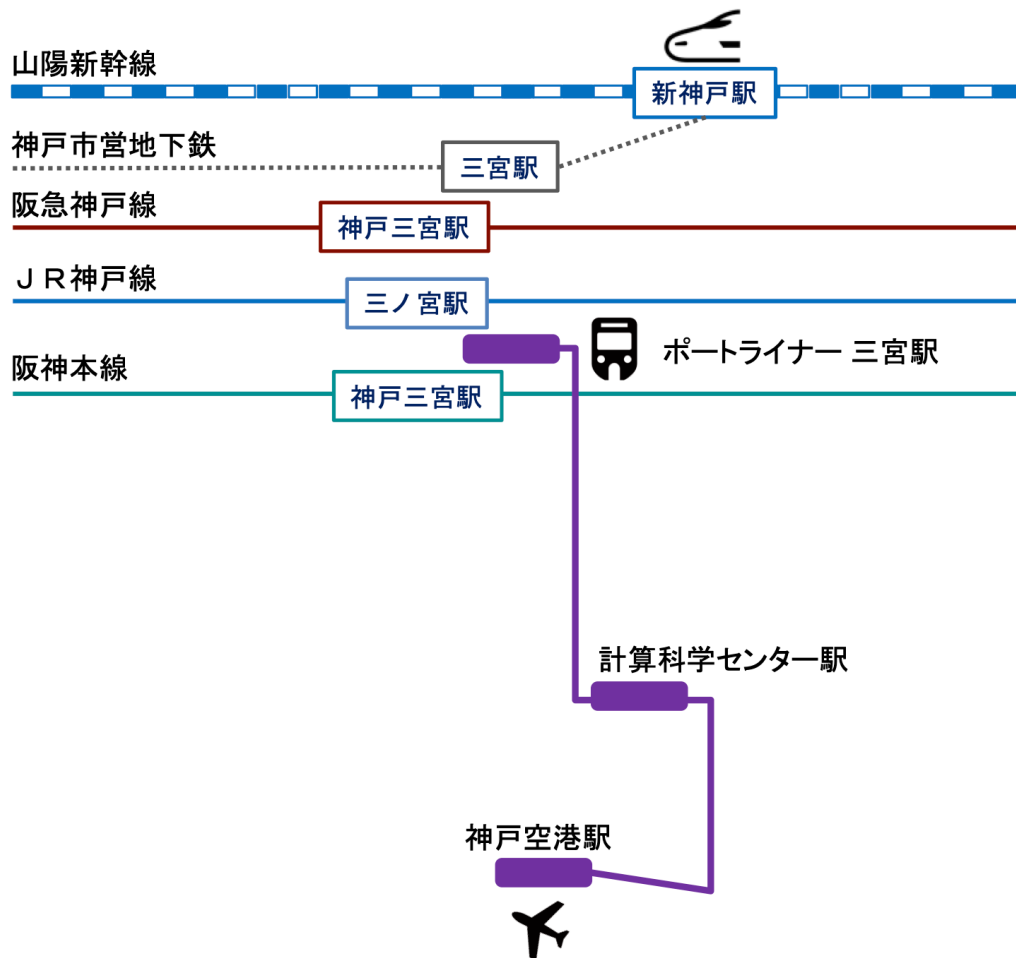
SSID	KUVISITOR
Network Key	KUVISITORWLAN
暗号化方式	WPA2-AES

手順2. インターネットへの接続／Authentication

Username (ID)	jagh43west
Password	dfea8593

☆ 接続認証はブラウザを開いて行ってください

会場までの交通



- 最寄り駅は「計算科学センター」駅、南口を出て徒歩1分です。
 - ✓ ポートライナー 三宮駅より「神戸空港」行きに乗車、約15分
 - ☆ 「北埠頭」行きは神戸空港方面には行きませんので乗車しないでください
 - ✓ ポートライナー 神戸空港駅より約4分
- 会場に駐車場はありません。公共交通機関、タクシー等をご利用ください。

参加者のみなさまへ

1. 受付

会 場 神戸大学 統合研究拠点（兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1-48）

開 場 午前8時45分

受付時間 午前9時15分～午後6時

参加費 会 員 2,000円 学生 500円
非会員 2,500円 学生 1,000円

懇親会費 3,000円 学生 500円

- * 対面開催のみで、オンラインでの参加はありません。
- * 当日の申し込みも承りますが、人数の把握のため可能な限り事前登録をお願いします。
- * 参加費、懇親会費は、ともに受付時にお支払いください。学生の方は身分証明書等の提示をお願いいたします。

2. 同伴者

- 会場内に同伴される方については原則として参加費をお支払いください。ただし未成年者（18歳未満）については、この限りではありません。
- お子様のお世話等で場所を必要とする場合には受付までお申し出ください。適当な場所をご案内いたします。

3. 飲食

(1) 場所

- コンベンションホール内では飲食ができません。またセミナー室 208 での食事はご遠慮ください。
- 昼食、休憩はロビー（1階、2階）、ラウンジ（4階）をご利用ください。ただしラウンジは懇親会準備のため15時以降は使うことができません。

(2) 施設等

- 会場周辺には昼食を購入できる店舗等がありません。お弁当（800円、ハラル対応）の事前予約を学会ウェブサイトで2月27日(木)18時まで受け付けていますのでご利用ください。当日12時より、代金と引き換えで受付（2階）でお渡しします。

<https://www.lab.kobe-u.ac.jp/ghs-globalhealth/jagh43west/page12.html> または

<https://forms.gle/4YP8DCZnUShpqvpw5>

- 会場内には飲料の自動販売機があります。

4. 喫煙

- 会場内は全面禁煙です。電子たばこ、加熱式たばこもご遠慮ください。

5. ゴミ

- 会場内に複数のゴミステーションを設置しています。分別廃棄にご協力ください。
- 事前予約のお弁当の空き箱のみ別途回収します。お手数ですが受付までお持ちください。

6. 問い合わせ等

- 当日のお問い合わせは受付、または学会事務室（2階コンベンションホール隣、エレベーター近く）にお越しください。
- メールでのご質問は<jagh43west@ams.kobe-u.ac.jp> または <info@jagh43west.net> まで。

演者のみなさまへ

1. 利益相反の開示

- 「利益相反申告書」を受付でお渡しします。必要事項を記載し必ず当日中に受付に提出をしてください。提出された申告書は事務局で3年間保管をします。

2. 口演

(1) プレゼンテーション資料の準備と事前送付

- 投影用アプリケーションは Microsoft PowerPoint を準備しています。
- 発表用データは 2月28日(金) 正午までに事務局メール <jagh43west@ams.kobe-u.ac.jp> または <info@jagh43west.net> まで送付をしてください。
- ご自身のパソコンの持ち込み接続は原則として受け付けておりません。特段のご事情がある場合には2月26日(水)までに事務局へご一報ください。

(2) 当日

- 13時までに受付に設置された確認用コンピュータで、ご自身のプレゼンテーション内容と動作に問題がないことを必ず確認してください。13時以降の動作確認は受け付けませんのでご注意ください。
- ご自身の発表時間を確認し、発表10分前には会場前方の「次演者席」へご着席ください。
- 一演題につき、発表9分、質疑応答5分、入れ替え時間1分間、計15分です。
発表開始から8分を経過した時点でベル1回、9分時点でベル2回を鳴らします。発表時間の厳守にご協力をお願いいたします。

3. ポスター

- 1階ロビーに縦150cm×横90cmのパネルをご用意します。A0版までの貼付が可能です。
(A3版は8枚まで、A4版は16枚まで貼付できます)
- 事務局で画鋏を用意しますので、指定の演題番号が掲示されたパネルにご自身で貼付してください。お手伝いが必要な場合には受付までお申し出ください。
- 当日8時より掲示が可能です。撤去は18時までにご自身でお願いいたします。終了後に残っているポスターは事務局で処分させていただきます。
- 発表時間は昼休み時間帯(12:10～13:30)です。各演題について発表時間の指定は行わず、また座長等の司会進行役もおきません。
- 発表者は、参加者からの質疑応答に対応する時間をポスター内またはポスター横に掲示し、その時間帯にはポスター掲示場所で待機をお願いします。

教育講演

1. 低中所得国のための医療デバイス開発と実装～先進国の経験を踏まえた知識・技術・思想の継承

演者 平川 英司（鹿児島市立病院／長崎大学）

演者略歴等

医師、医学博士、ILCOR (International Liaison Committee On Resuscitation) Content Expert、日本周産期新生児学会 新生児蘇生法委員、Initiative for global perinatal care (IGPC) 理事長

2007 年 鹿児島市立病院 新生児内科、産婦人科

2016 年 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科修了

2018 年 長崎みなとメディカルセンター 新生児内科

2021 年 鹿児島市立病院 新生児内科

長崎大学大学院 熱帯医学グローバルヘルス研究科

photo

時間 10:30～11:15

座長 神谷 保彦（長崎大学）

本企画の意図

世界各国と国際社会の継続した取り組みによって子どもの死亡は一貫して減少している。しかしながら新生児死亡、なかでも生後早期に発生する死亡の削減はなお緩やかであり、子どもの死亡に占める新生児死亡の割合は増加を続けている。

新生児死亡を減少させるためには、清潔な水や基本的医療へのアクセスが担保されると同時に、分娩助産者の適正な知識と技術、さらには病的新生児への医療的対応など、さまざまな段階の対策が求められる。SDGs での新生児死亡率達成目標は出生千対 12 であるが、WHO は 15 以下への削減のためにはいわゆる新生児集中治療が必要と提言している。この実践は多くのリソースを必要とするゆえに高額となりがちであり、政策面、医療提供面、さらには受領者側の経済的側面からも積極的に取り組まれていないのが実状である。

そのような現実に一石を投じるべく、平川氏は安価かつ有効性が高い新生児向けの医療機器を本邦企業とともに開発し、さらに研究費を獲得してその臨床試験をアフリカとアジア地域で展開している。この講演では、医療機器開発の動機と実際、また高度かつ複雑な本邦における新生児医療と低中所得国地域とを結びつける発想について紹介していただく。

2. Is Knowledge Transfer really feasible? ~ Examining Educational Paradigms, Teaching-Learning Processes, and the Shift Towards Constructivist Learning in Modern Health Education ~

演者 Carlos Kiyon Tsunami (Institute of Tropical Medicine Antwerp)

演者略歴等

Carlos Kiyon Tsunami (喜屋武 津波 カルロス) is a third-generation Okinawan-Peruvian expert in technology-enhanced learning, with over 25 years of experience in digital education and health technology. He earned his medical degree from *Universidad Peruana Cayetano Heredia*, where he later worked as a faculty member and researcher,

photo

contributing to telemedicine and e-health initiatives at both the university and the *Instituto de Medicina Tropical Alexander von Humboldt*. His work focused on leveraging technology to improve healthcare access in underserved communities.

Since 2006, as E-Learning Coordinator at the Institute of Tropical Medicine Antwerp in Belgium, he has led groundbreaking mobile learning initiatives, earning prestigious recognitions such as the Brandon Hall Gold Award. Passionate about pedagogy and technology, Carlos has conducted transformative workshops in over 60 countries, fostering critical thinking and problem-solving skills among healthcare professionals and educators.

His work extends to designing capacity-building programs that strengthen healthcare delivery through technology-enhanced learning across Africa, Asia, Europe and North America and Latin America. A frequent speaker at international conferences, he continues to champion accessible education, digital empowerment, and evidence-based learning methodologies to equip individuals with the tools to analyze, question, and innovate in their fields.

時間 11:25～12:10

座長 松井 三明（神戸大学）

本企画の意図

人々の健康を守るためには、より良い保健医療サービスが提供され、それが利用されることが必要条件である。その実現には、政策、実践、研究など多くの側面においてプロフェッショナルが育成されること、そしてプロフェッショナルたちが受益者を含む人々と対話を重ねながら適切に協働することが求められる。その基本となるのはさまざまな教育訓練である。

教育訓練が単に知識を伝授するだけのものでないことは、特に保健医療分野では明白である。保健医療の実践には常に作用と副作用が存在するため、同じ行為が行われたとしても有害性が有益性を上回る可能性がある。また特に疾病という人間の弱点を取り扱うために保健医療に関わる人々は受益者に対して相対的に優位な立場となる。そのため教育訓練の実施にあたっては公益性と倫理性の視点を欠かすことができない。

カルロス氏は、長年にわたって主に低中所得国の保健医療従事者に対して教育訓練を行っており、近年はIT技術を駆使して多国間の協働を促進している。その経験から、知識の伝達にとどまらないプロフェッショナル育成のあり方についてお話しいただく。

シンポジウム

「人々の連帯への道のりを考える：在留外国人をめぐる最近の話題から」

登壇者 加藤 丈太郎 (武庫川女子大学)
高 知恵 (大阪公立大学)
樋口 倫代 (名古屋市立大学)
山下 正 (神戸市看護大学)

時間 16:00～17:45

座長 岩本 あづさ (国立国際医療研究センター)、小林 潤 (琉球大学)

本企画の意図

日本国内における外国籍者の在留数、労働者数は、2023 年末時点でともに過去最高を記録した。日本国籍者の総人口および生産年齢人口が減少局面にある現在、外国籍者は貴重な労働力である。一方、本邦政府は明示的な移民政策をとっていない。そのために外国籍者が本邦で暮らしていく際の制度整備は十分とはいえない。同時に、ヘイトスピーチに代表されるように、特定の属性を持つ集団に対する差別と偏見の増大と人々の分断は進行しているように見受けられる。そして、それは外国籍者、日本国籍者、ともに発生している。この世界における種々の格差の解消を目指す日本国際保健医療学会に所属するわれわれは、これらの事態の発生と悪化を深く憂慮している。

さて、先ず隋より始めよ、である。公衆衛生学の基本のひとつが記述疫学であるように。この企画では、それぞれの登壇者に、外国籍者が本邦で暮らしていく際に重要と考える課題と、それらに対する研究、活動などの取り組みを紹介していただく。これを通じて、われわれの身近にある課題を確認し、どのようにして人々の連帯に貢献し、この世界をより良いものとするのができるのかを議論することを目的に実施する。

一般演題

Parallel session [1] コンベンションホール／Convention Hall

13:30 ~ 14:30

座長／Chair 樋口 倫代（名古屋市立大学）Prof Michiyo Higuchi (Nagoya City University)

- | | | |
|------|--|------------------------|
| O1-1 | Effectiveness of Family Planning Interventions among Pregnant and Postpartum Women in Nepal: A Cluster Randomized Controlled Trial | Shrestha Gita |
| O1-2 | Effectiveness of a nutrition education package in improving feeding practices, dietary diversity and growth of infants and young children in Nepal: a randomized control trial | Seeta Baral |
| O1-3 | Association between the frequency of treating foreign patients and the cultural competency of Japanese healthcare professionals | Yu Par Khin |
| O1-4 | Risk factors and anaemia prevalence among pregnant and non-pregnant women of reproductive age in Ghana: an analysis of the Ghana Demographic and Health Survey data | Agulu Gilbert Gangtaba |

Parallel session [2] セミナー室 #208／Seminar Room #208

13:30 ~ 14:30

座長／Chair 増田 研（長崎大学）Prof Ken Masuda (Nagasaki University)

- | | | |
|------|--|----------------|
| O2-1 | Exploring international travel experiences during the COVID-19 pandemic | MARUYAMA Akane |
| O2-2 | Development and validation of the Japanese version of cultural competence scale for clinical nurses: pilot study | Yucheng Xiang |
| O2-3 | ブータンにおけるソーシャルワーク改善モデル：日本の地域ケア会議を参考に | 平山 貴一 |
| O2-4 | カンボジア州立病院における看護実践の実態調査：活動報告 | 庄司 弥生 |

Parallel session [3] コンベンションホール／Convention Hall

14:45 ~ 15:45

座長／Chair 中澤 港（神戸大学）Prof Minato Nakazawa (Kobe University)

- | | | |
|------|---------------------------------------|--------|
| O3-1 | 人生最初の 1000 日間に国内騒乱を経験した女性の成長後の栄養状態の検討 | 高井 久実子 |
| O3-2 | パラオの児童・生徒における親の関わりとメンタルヘルスとの関連について | 馬場 翔聖 |
| O3-3 | 長期日光曝露と虚血性心疾患死亡率の関連：国レベルの生態学的研究 | 加藤 遥香 |
| O3-4 | 中国の中高年及び高齢者における抑うつリスクについて | 王 舒 |

Poster session 1 階 ロビー／Lobby, Ground floor

12:10 ~ 13:30

P-1	WASH practice and awareness of schistosomiasis in Kwale County, Kenya	Ayumi TANIGUCHI
P-2	Family Care of the Older Persons and Living Conditions: Qualitative Descriptive Study in Rural Kenya	Ken MASUDA
P-3	若年成人における新型コロナウイルスワクチン接種意向に対する寄与因	福井 義一
P-4	COVID-19 パンデミック前後の double burden of malnutrition 関連施策の実施状況	三好 美紀
P-5	健康保険の導入がリプロダクティブ・ヘルスに与える影響ーインドネシアにおける UHC	松岡 悦子
P-6	更年期の働く女性の身体・心理・社会的健康課題とその背景から見た女性支援のあり方に関する質的研究	吉武 姿子
P-7	難聴有病率と珈琲喫飲の関連：国レベルの生態学的研究	谷村 晋
P-8	ブラジルにおける養育者のためのケアの実施と実施前後の子育てのストレス評価	若林 真美
P-9	シエラレオネの農村部において、モリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作りに取り組む地域の活動と児童の食事状況	藤井 千江美
P-10	インドネシア・アイルランガ大学における血液透析液改善と透析予後の改善	足立 基
P-11	国際共修における Collaborative Online International Learning (COIL) の取り組みと課題	吉野 八重
P-12	名桜大学人間健康学部看護学科におけるグローバル・ナーシングの取り組みと展望	藤井 まい
P-13	ネパール国トリブバン大学小児外科設立に至るひとづくりについて	山本 秀樹
P-14	日本国際保健医療学会学生部会 (jagh-s) の活動報告と活動からみえた課題	石上 美桜